

しんめいせいぼしこうく  
**新名西橋工区**

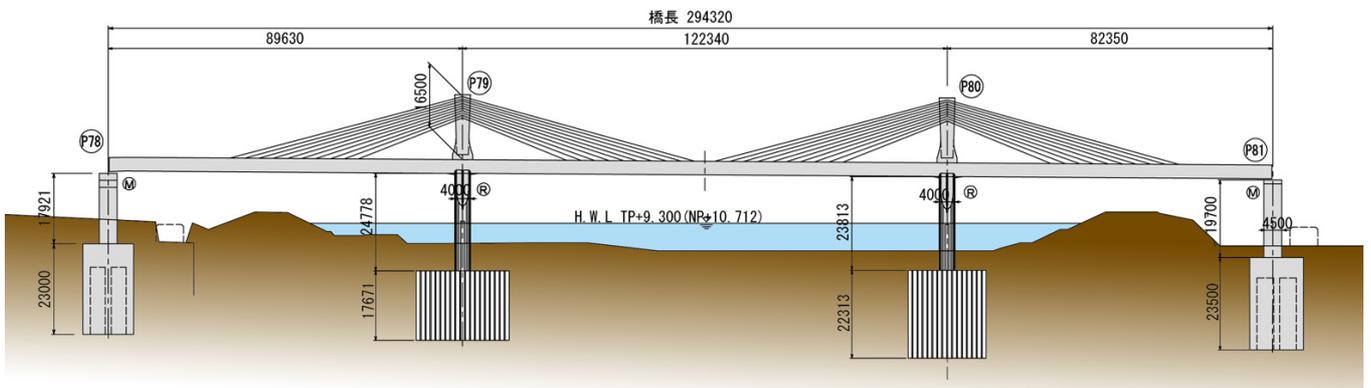


新名西橋工区（完成名：赤とんぼ橋）は、名古屋高速道路高速6号清洲線の庄内川渡河部に計画された、橋長294m、中央径間122mのPC3径間連続エクストラードロード橋です。

本橋の特徴として、河川内の橋脚断面が河川阻害率により制限されているため、橋脚に高強度材料を使用しスリムな橋脚幅にしています。また主桁断面には逆台形3室箱桁断面を採用し、主桁の軽量化および斜材張力の伝達に優れた形状としています。主塔は鋼・コンクリート合成構造とすることで現場溶接作業を不要とし、施工性を大幅に向上しています。

▼一般図

側面図



▼橋梁諸元

断面図

工事名：県道高速名古屋朝日線 新名西橋工区上下部工事  
 発注者：名古屋高速道路公社  
 設計者：基本設計・下部工詳細設計：新構造技術㈱  
 上部工詳細設計：三井住友建設㈱・㈱ピーエス三菱・㈱白石JV  
 位置：愛知県名古屋市西区上堀越町4丁目  
 ～西春日井郡西枇杷島町小田井1丁目  
 道路規格：第2種 第2級  
 形式：PC3径間連続エクストラードロード箱桁橋  
 荷重：B活荷重  
 橋長：294m (88.501m+122.340m+81.220m)  
 道路幅員：標準部：19.0m (有効幅員：16.0m)  
 非常駐車帯部：23.0m (有効幅員：20.0m)  
 架設工法：張出し架設工法  
 (側径間：コアセグメント先行架設による主桁断面分割施工)  
 PC鋼材：斜材 SWPR7B 43S15.2、37S15.2  
 (SEEE工法 PAC-H型斜ケーブル仕様)  
 主桁外ケーブル SWPR7B 19S15.2 (SEEE工法)  
 主桁内ケーブル SWPR7B 12S15.2 (SEEE工法)  
 SWPR7B 4S15.2 (SEEE工法)  
 SBPR930/1180 Φ32 (ディビダーク工法)  
 床版横締鋼材 SWPR19 1S28.6 (SM工法)

